病　院　だ よ り　　2018年3月号　第364号

定年退職のご挨拶

～本年度をもって定年退職される先生方から
ご挨拶と医師人生を表すお言葉をいただきました。～

昭和大学病院 小児科 板橋　家頭夫 教授

昭和大学医学部小児科学講座主任教授に就任して以来15年間にわたりお世話になりました。皆様には厚く御礼申し上げます。

私は 1979 年に昭和大学医学部を卒業後直ちに昭和大学小児科学教室に入局し、以来約40年にわたって小児科医を続けて参りました。これまでの医師としての歩みを振りかえり、それを言い表すとするならば、**「ゴールのないマラソン」**という感じでしょうか。今でこそ新生児集中治療を専門にしていますが、入局当時は自身のスキルが未熟なため採血に手間取ることが多く、また呼吸障害を合併した早産児が入院すると約2晩は泊まり覚悟となるため、新生児集中治療は苦手でした。その後、新生児医療を知れば知るほど新生児期に限らずその後の成長や発達、成人期になったときの生活習慣病や精神神経疾患のリスクなどかえって勉強しなければならないことが増えてきてしまいました。結局のところ、そのゴールは未だ見えずに今日に至っています。したがって次代を担う小児科医にそのバトンを受け渡さなければと痛感していているところです。

新生児集中治療室（NICU）ではさまざまな患者さんを診療させていただきました。患児の呼吸状態が極めて不安定で保育器のそばを離れられずNICUの床で仮眠をとったこと、早産低出生体重児に合併しやすい呼吸窮迫症候群に対する人工肺サーファクタントの効果のすごさ、染色体異常を合併した児の家族からの治療拒否など枚挙にいとまはありません。これは出向先でのエピソードです。疲労困憊した状態で当直していたおりに、NICUで点滴もれがあり看護師がコールしたとのことですが、起きてきた私は手洗い周りを見て水道は漏れていないと言い残して当直室に戻ったようです。そのためやむを得ず看護師が点滴を再施行したらしいのです（実は私自身このエピソードの記憶がないのです）。この当時の看護師と会うといつもこの話を持ち出され、からかわれます（このような状況に陥らないためにも医師の働き方改革は必要なのかも知れません）。

さて、長い医師人生をおくってきて今更ながらですが、私は患者さんあるいはその家族の立場になって考えることを常に念頭に置いて診療にあたることが重要であると考えています。医師はしばしばパターナリズム的言動や行動をとりがちですが、患者さんやその家族にはそれぞれの人生を通じて得た多様な考え方があります。その多様性を認識した上で患者さんにとって最適な診療を心がけることが必要だと思います。NICU では重症のお子さんが多く入院していたため看護師をはじめとするメディカルスタッフの支えなしには診療ができないことは身に染みて感じています。皆さんには患者さんあるいはその家族を中心に据えたチーム医療の実践は、高度な医療を行っている大学病院だからこそより重要であることも強く認識してもらいたいと思います。

本年３月末をもって講座主任の任期が終了しますが、現在の院長職はあと２年間残っております。
今後は、さらに院長職に専念し皆様とともに病院運営に邁進していく所存です。

昭和大学病院 腫瘍内科 佐々木　康綱 教授

「唾面自乾」

私事ではあるが、2015 年の大晦日の夜、母方の祖父佐々木忠綱の生き方が、NHK ラジオで紹介された。祖父は昭和 13 年 30 歳代で長野県南部の寒村の村長に就任した。日中戦争当時、わが長野県は、多くの農民を開拓団として満洲へ送り込んだ。その際祖父は実際に現地を視察し、この事業の危うさを感じ、村からの開拓団の派遣を取りやめた。国策に背いた祖父に対して、周囲から強い迫害が加えられたという。人生時として、どうしても妥協できない部分がある。このような時、たとえ他人から唾をかけられても自然に乾くまでひたすら耐える勇気を持ち続けたい。

昭和大学病院 小児外科 土岐　彰 教授

この度、平成 30 年 3 月 31 日をもって、昭和大学医学部外科学講座小児外科学部門教授を退任することになりました。平成 16 年 1 月 1 日に、岡松孝男前教授の後任として昭和大学へ赴任して以来、14 年と 3 カ月が過ぎました。

私の診療に対する基本理念**「一誠は百術に優る」**ということです。就任当初から、この理念のもとにひたすら診療に邁進してまいりました。また、座右の銘として「莫妄想」という考えのもとに人生を歩んでまいりました。この言葉は、過去を憂うことなく、未来を案ずることなく、ただひたすら「今を一生懸命に生きる」ということです。この 2 つの教えのもとに「症例を 1 例 1 例大切にしていく精神」は、今後も昭和大学小児外科に受け継いでいただけるものと思っています。

今まで、臨床、教育、研究に対し、絶え間なく支え続けていただいた「昭和大学」、「小児外科・一研 OB 会」、「外科同門会」および「小児外科学教室員」の皆様方に心よりお礼申し上げます。有難うございました。

そして、今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

昭和大学病院附属東病院 眼科 高橋　春男 教授

昭和 53 年眼科学教室に入局して約 40 年間お世話になりました。昭和 55 年には、沖縄県立名護病院の医長、昭和 57 年富士吉田市立病院、昭和 58 年長野県御代田中央記念病院医長を経験し。昭和 62 年昭和大学眼科医局長、平成 6 年から昭和大学附属豊洲病院を任され、平成 24 年から昭和大学病院附属東病院に戻りました。各病院ではスタッフの方々に本当にお世話になりました。退職にあたり深謝いたします。

私の医師としての人生は、「和」であったと思います。まず良い出会いがとても多く、出張病院では、沖縄を除きすべて初代医長でしたが、各病院長をはじめ様々な職種の方々との協調で、良い医療ができたと思っています。特に豊洲クリニック院長の時、東北の震災があり、豊洲病院から約 50 名の入院患者さんをクリニックに移動させた時、患者さん家族と職員が協力して患者さんの移動と同時に、そ非常食は、患者さんに配り、素早くコンビニで、職員・患者さん家族分のおにぎり等を購入、院内のオフィススナックのストックを職員に配って、患者さんやその家族、職員が無事に過ごせたことがその例であったと思います。今後は人口が減少してきます、教職員一人一人を大切にして、この「和」を大きくすることで、多様なことができるようになると考えています。昭和大学もこれから多くのよい人材が、集まるような大学になって欲しいと思います。

昭和大学病院 小児科 田角　勝 教授

４０年間の小児科医としての多くを昭和大学で過ごしました。振り返ると医師になった最初の４年間が圧倒的に印象深いものです。１年目は昭和大学病院、２年目は関東労災病院、３－４年目は神奈川県立こども医療センターでの勤務でした。ほぼ毎日病院で過ごし、それが楽しくて仕方ありませんでした。その頃に学んだことは、身体と心にしみつき、今でもしっかりと刻まれています。そして小児科医として、最後に何をするのだろうかと考える日々です。

昭和大学病院 放射線科 廣瀬　正典 教授

2001 年 4 月に昭和大学病院に赴任し、あっという間に 17 年が過ぎ、定年を迎えることとなりました。画像診断を宗近、後閑両教授をはじめとする諸先輩方からご指導いただき、また様々な病院の委員会に参加することで、病院運営など多くのことも学ぶことができました。充実した 17 年間を過ごすことができ感謝しております。

昭和大学病院および放射線科のさらなる発展を心より祈念し、退職のご挨拶とさせていただきます。

私の医師人生を一言で表すと「人間万事塞翁が馬」だと思います。聖路加病院に勤務していた時、学位論文のテーマについて部長に相談しました。外科の中村先生（現乳腺外科教授）と乳腺 MRI の研究はどうかと言われ、乳腺専用 MRI コイルを手配してくださいました。当時乳腺画像診断など全く人気なく、専門にする放射線科医もほとんどおらず、私も乳腺に全く興味はありませんでしたが、仕方なく乳房 MRI の研究を始めました。その後ずっと乳腺画像診断に携わったおかげで現在の自分があるので、何が幸いするかわからないということです。

定年退職される職員の紹介

昭和大学病院　産婦人科
研究補助員　千葉　博
昭和 62 年８月１日入職

昭和大学病院附属東病院
看護部　看護補助員
荒井　恵美子
平成５年９月１日入職

昭和大学病院 管理課
技術補助員　藤田　徹
昭和５４年８月１日入職

患者さんの状態に応じた最適な放射線治療によりがんの治癒、症状緩和を目指しQOL向上に努めています

診療体制

放射線治療科は放射線によるがん治療に特化した診療科です。医師および医学物理士で構成されています。現在毎日60人前後、年に700～800人と多数に治療を行っており、リニアック、高線量率小線源治療装置が各々1台あり治療計画用CT2台、治療計画装置6台を備え高精度放射線治療、3次元原体放射線治療ができる体制を整えています。小線源治療は主に子宮頸癌、前立腺癌、乳癌に対して行っています。ストロンチウム89、ラジウム223、ヨード131によるアイソトープ治療も担当しています。

放射線治療はほとんどの悪性腫瘍が対象で進行度がどの段階でも行える治療です。早期の頭頸部癌では臓器温存/機能温存により発病前と変わらないQOLが得られ、手術ができない進行子宮頸癌、肺癌では長期に再発なく元気に過ごされている人がいますし、骨転移の痛みが和らぎます。毎週のキャンサーボード（消化器、呼吸器、乳腺）や、月に1回行っている耳鼻科、泌尿器科、婦人科、血液内科とのカンファレンスでは標準治療をベースに最も有効な放射線の用い方も議論し治療方針を決めています。患者さんの意向にできるだけ沿うように、状態に応じて最適な放射線治療を放射線治療技師、看護師とも力を合わせて行います。

特徴的な治療領域

- **高精度放射線治療（強度変調放射線治療(IMRT)、定位放射線治療）**

放射線治療はがん病巣に放射線を集中させ正常組織への線量を下げる方向で治療開発し、進歩してきました。これにより腫瘍制御の向上、有害事象の軽減が実現してきています。高精度放射線治療施行には高度の専門性が必要であり、医師と共に医学物理士が治療計画を行う体制になっています。【左記図】肺癌の定位放射線治療

- **小線源治療**

前立腺癌を対象に外部照射併用を評価するため泌尿器科と共同で臨床試験を行っています。

- **ラジウム223**

α線を用いる放射線性医薬品で骨転移のみの去勢抵抗性前立腺癌で生存期間延長が期待できます。限定された施設で施行可能で品川区では当院を含め2施設です。

- **多施設共同臨床試験**

新たな治療開発を目指している臨床試験に参加しています。JCOG(日本臨床腫瘍研究グループ)認定施設であり、現在はIMRT（頭頸部癌、子宮頸癌（術後））および肺癌の定位放射線治療の試験に患者さんの同意を得て登録をしています。乳癌温存術後にSAVIを用いた臨床試験にも参加しています。

放射線治療科　診療科長：加賀美　芳和（Kagami Yoshikazu）
趣味：スポーツ観戦（ラグビー、サッカー、野球）、読書

がん治療は診療科の垣根を超えた集学的治療が求められていますが、キャンサーボードなどチーム医療が行える体制が整備されつつあります。当院は〝がん診療連携拠点病院“であり、循環器、呼吸器、脳血管疾患などの専門医が多く併存症に対応できる機能を有しています。是非、昭和大学病院にご紹介ください。放射線治療施行割合はがん患者の30%程度と欧米の50-60%と比べると小さく、まだ放射線治療の恩恵を受けていない方が多いように思います。適応の判断に迷った場合は是非ご相談いただければと思います。

部署 PR コーナー　No.3「歯科室」

歯科室だより

歯科室　岡松　良昌

どうして手術時に口腔ケアが必要なの？

これは手術前に歯科受診される多くの患者さんに聞かれる質問です。全身麻酔下での手術は、口から気管内へチューブを入れ、人工呼吸器という装置で呼吸が管理された状態で行われます。この口と肺がチューブでつながっている状態は、口腔内の細菌が他の組織へ感染し、重大な合併症を引き起こすリスクがあります。とりわけ肺炎は誤嚥性肺炎や人工呼吸器関連性肺炎など、手術後に発生頻度の高い合併症の１つであり、口腔内の細菌が強く関わっていると言われています。

■周術期口腔機能管理の推進

術前～術後の一連の期間を総称して周術期と言います。周術期口腔機能管理の目的は、周術期を通じておロを清潔に保ち、その機能を維持しましょうというものです。これを行うことにより合併症が減り、入院期間が短縮されたという報告もあります。当科ではそのような患者さんを対象に、歯科医師による口腔内診査や歯科処置、歯科衛生士によるブラッシング指導や口腔清掃を行っております。

■受診するには

現在、外科系を中心に多くの診療科と連携し、周術期口腔機能管理を行っております。周術期以外の場合も含め、当科への受診は医師の紹介が必要です。担当医にご相談下さい。

羽ばたけ未来の医療人　No.2「入職１年目 臨床工学技士」

今月は「**入職１年目 臨床工学技士**」のこの方をご紹介します。

【山岸　麟太郎さん】

～一問一答～

Q 臨床工学技士を目指した理由を教えてください。

元々は大学で医療と関係のない工学系の勉強をしていました。しかし、大学２年生の時に病気で １ ヶ月入院することになり、そこで医療従事者の方々によくしてもらいました。その経験から自分も医療の道に進み人の役に立ちたいと考え始め、その時勉強していた工学の知識も活かせる臨床工学技士を目指しました。

Q 現在はどのような業務をしていますか。

現在はこれまでやってきた機器管理業務に加え、新たに心臓カテーテル業務に就かせてもらっています。心臓カテーテル業務はデバイスや測定機器および病態など覚えることがこれまで以上に多く苦戦していますが、その分やりがいも多い業務なので日々の勉強を怠らず努力しています。

Q 今後、どのような職員を目指しますか。

現在の業務をいち早く覚え一人前に出来るようになるのと同時に、まだ就けていない OPE 室業務や透析業務にも早く就けるようになりたいです。将来的には臨床工学技士の先輩方のような全ての業務ができるジェネラリストを目指しており、そのためにも日々の業務を流れ作業にせず一つ一つ丁寧に行い、気づいたことは小さなことでもしっかりと調べ勉強していきたいと考えています。

患者さんのご意見・ご要望

ご意見・要望	回答	回答部署
エスカレーターの速度をもう少し遅くしてもらえると助かります。速すぎて乗るのに躊躇してしまいます。	ご不便をおかけし申し訳ございません。現在設置しているエスカレーターは速度を調整する機能がありません。今後エスカレーターを更新する際に、既存の物より遅くできるようこの度のご意見を参考にさせていただきます。今しばらくご不便おかけしますが、ご理解の程お願い致します。	施設部
ＣＴの検査について、文字でやり方等説明してくれるのはありがたいが、字が小さすぎて見えない。	この度はご不便をおかけし申し訳ございませんでした。 ＣＴ・ＭＲＩ検査室では書面での検査説明用紙を単一のものしか用意しておりませんでした。そのため字が細かく読み取りに不自由をお掛けしました。今回のご指摘を受け、ＣＴ・ＭＲＩ検査室では文字の大きな説明用紙を用意しました。併せて今後もより一層患者さんに分かりやすい説明ができるよう、説明用紙を使い分けて説明を行います。今後も安心して検査を受けていただけるよう努めてまいります。貴重なご意見ありがとうございました。	放射線室
キャンセル後の予約を自分でする場合、１日中電話をしてもつながりません。もっと他の方法か電話機を増やして下さい。	ご不便をおかけし申し訳ございません。現在、予約センターの開始時間を早め、電話が繋がりやすくなるよう対応致しました。しかし、まだ繋がりにくい環境ではありますので、土曜日の対応を含め更なるサービスの向上に努めてまいります。何卒、ご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。	医事課

平成30年3月掲載分
ご意見・要望の内訳
昭和大学病院・東病院総件数
98件

イベント情報　院内コンサートについて

【昭和大学病院第 85 回院内コンサート】
日時：平成 30 年 3 月 17 日（土）17:00～17:45
場所：大学病院中央棟 1 階ロビー
出演：ギターアンサンブル

編集後記　昭和大学病院附属東病院 病院長 稲垣　克記

昭和大学病院・附属東病院は電子カルテ化とともに新年を明けましたが、入学試験、学位記次に永年ご勤務された先生の最終講義の準備と粛々と進んでおります。本号は昭和大学病院長板橋先生はじめ腫瘍内科佐々木教授、小児外科土岐教授、小児科田角教授、眼科高橋教授、放射線科廣瀬教授のお言葉を頂きました。6 名の先生方はまだまだお元気で若々しい先生ばかりです。引き続きご指導とご鞭撻をお願いしたいと思います。

昭和大学病院･附属東病院の理念

- 患者さん本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- 患者さんと共にチーム医療を実践する。
- 特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- 人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

ご意見・要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jp までお願いいたします。

病院広報委員会委員：　荒川 千春、飯田 真由、磯飛 雄一、稲垣 克記、大嶽 浩司、佐藤 久弥、白井 敦、鈴木 隆、中村 清吾、平野 勉、結城 祐磨、吉田 仁、渡邊 聡（50 音順）